

ヒューマンケア通信 (Vol.1 H22年11月01日)

= ヒューマンケア通信の発行に当たって =

代表 北川博一

本年5月にヒューマンケア・システム研究所を立ち上げて半年を経過し、事業展開も軌道に乗ったことから、今般、ヒューマンケア通信を月2回のペースで始めることとしました。私の仕事のこと、私が関与している医療福祉の動きや最近の報道に関する私の見解、場合によっては 家族の動向などの内容を考えています。個人のプライバシーには配慮しますが、事例として記載された方におかれては、ご不快になるかもしれませんので、第1回冒頭でお詫びをしておきます。申し訳ありません。

さて、本研究所は、私の20年の医療・福祉行政の経験、5万人を雇用する国立病院機構での本部財務責任者の経験、民間病院グループでの事業再生の経験を活かして、個々の事業者、地域のサービス展開について具体的な改善活動を支援することを目的として立ち上げたものです。

行政官時代の「全国的な視野で制度整備」という実感の伴わない仕事の限界を超えて、自ら考え出した制度理念・仕掛け等を、現実の社会で実践してみようという個人的な実験でもあります。

行政官をやめた時には、所属した旧厚生省以外の多くの方から「何故？」と問われたものです。財務省主計局・在中国日本大使館等の関係者、医療団体や障害団体の関係者、行きつけの飲み屋のマスター達、それから親戚一同からです。厚生労働では、今話題の村木局長から遺留されたことだけは印象深く残っています。(村木さんの「無実の証明」を喜んでいます。)

その時は、退官する理由をはっきりと言わなかったことを記憶しています。その時の感覚は、中国勤務を終えて帰国した平成10年以降、平成12年度診療報酬改定、後期高齢者医療制度の方針決定、心神喪失者等医療観察法の施行、障害者保健医療福祉改革ビジョン～障害者自立支援法案という激務の連続に疲れ、離れたいという主観的な嫌悪感と、こうした取り組みが無駄に終わるであろう政治・行政の将来のありようを予測し、世の中を間違った方向に進めることに関わりたくないという客観的な正義感の半分半分だったと思います。この判断は、現在の政治主導という名の下の、制度は廃止するが先が見えない高齢者医療や障害者問題、現在高齢者の過去の予防接種による感染問題に関する増税を前提とした数兆円の訴訟和解など、国の停滞状況や負担者＝現役世代不在の議論を見るに、正しかったと確信しています。少なくとも この数年間は お役所にいるより世の中の役にたったことは確実です。

民間病院グループでの挑戦は、正直自信があった訳ではありませんが、自分の経営管理・組織管理の「仮説」を実践する良い機会として積極的に取り組み、その結果、2年間で△5億の事業損益を +6億に改善することに成功したことをもって独立し、多くの方の相談支援を行うことで、私の娘たちに胸のはれるような健全な社会を実現すべく、着実に成果を積み上げていきたいと思っています。

新事業に関する名称は、将来への期待を家族と共有すべく募集したのですが、最終的には、私の考えで皆に合意してもらいました。私の考えは、仕事の範囲（医療・介護・福祉などの対人ケア事業）、問題解決に向け事業・地域を動かすには人（ヒューマン）を動かすこと、問題解決は単発ではなく複数の仕組み（システム）でという基本哲学と共に、脳梗塞で生死の境を彷徨いながらも、重度の障害は残ったものの生命をとりとめ、かつ意識・知能は健全な状態という奇跡的な状態にある姉の存在も大きな決め手でした。

姉を支援する体制を整え、姉が私たちの同世代の一員として、娘たちに胸のはれる健全な社会づくりを進める一員として参加してもらおう試行的で息の長い取り組みを实践する拠点として、「ヒューマンケア・システム研究所」という名称はふさわしいと思ったのが最大の要因です。今は、研究所の職員は、私の配偶者だけですが、いずれ姉や私と思いを同じくする方で、会社組織として成長していくことを願っています。

本研究所の業務は、次の5つを柱に、継続的な支援を念頭に置いています。

- ① 医療・介護・障害各分野の政策の分析・提言
- ② 地域ヒューマンケアサービスの構築の企画・支援
- ③ 各事業の経営分析・経営改善支援
- ④ 各事業の組織分析・マネジメント改善支援
- ⑤ グループ経営本部の強化支援と人材育成支援

現在のところ、

- ① 全国的な医療団体の研究支援・政策助言
- ② 大手医療コンサルタント会社の新規事業展開の助言支援
- ③ 医療法人の経営分析・改善支援
- ④ 障害者就労の社会福祉法人の管理職教育・販売拠点の拡大支援

などの10弱の継続的な支援関係を基礎に、個別の講演活動を進めながら、研究所のもう一つの目的達成のため、年のせいか聞きわけが悪くなった親との「格闘」を覚悟で、毎月1回、姉夫婦と両親の住む地元福井へ通っています。近々、私は本拠を福井に、東京やその他の地域へ出て行くスタイルに変える予定ですが、これを可能とするIT技術の進歩に感謝する次第です。

行政時代・病院経営時代に鍛えた、問題補足能力と、解決の知恵と工夫、そして実践力と説明力で、新たな自らの目標達成のために努力していきますので、皆様、期待を持って私の行動を見ててください。

最後に、仕事の面では妥協はしませんので、厳しい言葉が出ることもあると思いますが、特にその人を嫌いであったり、侮ったりしている訳ではないので念のため。

では 次回は 高齢者医療制度について